



郵便便かき

神西
山崎
又八
氏
伊勢
國
小
口

印刷局製遺

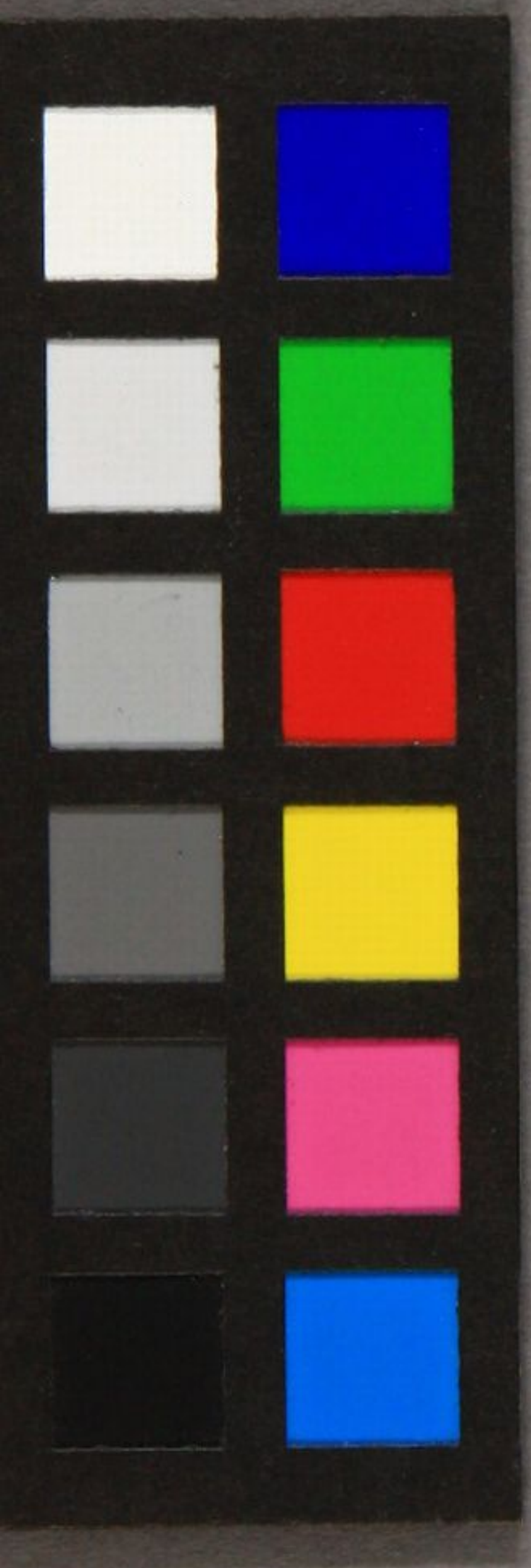
遠信省設行

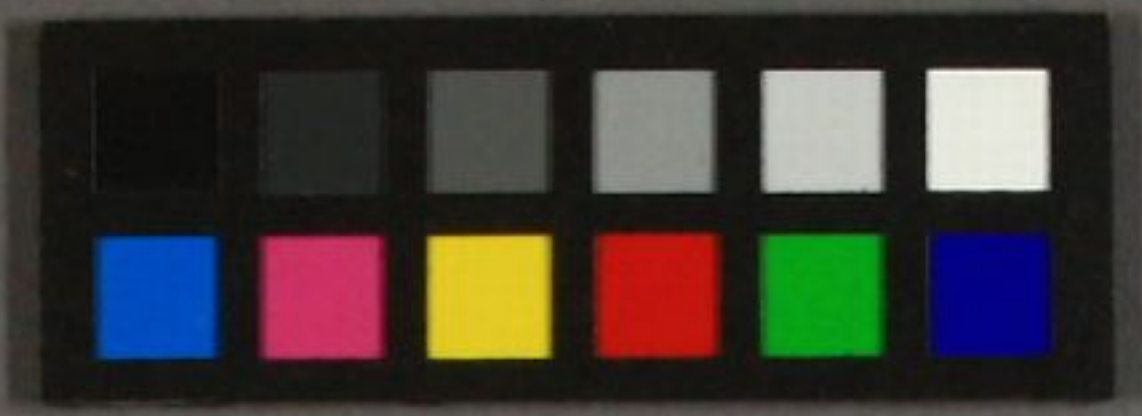


150

140

敏 志 子 井
 敏 志 子 井
 敏 志 子 井





拜見奉_レ存_レ之故_レ深_レ満_レ之_レ也
 七週忌に於_テ申_レ上_レの_レ再_レ在
 幸_レの_レ違_レふ_レれ_レ御_レの_レ御_レ海_レの_レ御_レ也
 表_レ々_レの_レ左_レの_レ御_レの_レ法_レ會_レ及
 紀_レ會_レ傳_レ演_レ會_レを_レ用_レ信_レ仕_レら_レる_レ御_レ特_レに
 法_レ會_レの_レ席_レに_レ御_レ臨_レの_レ御_レ來_レ臨_レの_レ御_レ
 榮_レと_レ賜_レら_レる_レ以_レ段_レと_レ事_レの_レ也

六月五日午時 法會

會場 法會傳演會

六月六日午時 紀會傳演會

會場 九段御代部

六月八日午時 紀會傳演會

會場 本_レの_レ御_レの_レ御_レ也

六月七日午時 紀會傳演會

會場 法會傳演會

女_レの_レ御_レの_レ御_レ也

法_レ會_レの_レ御_レ也

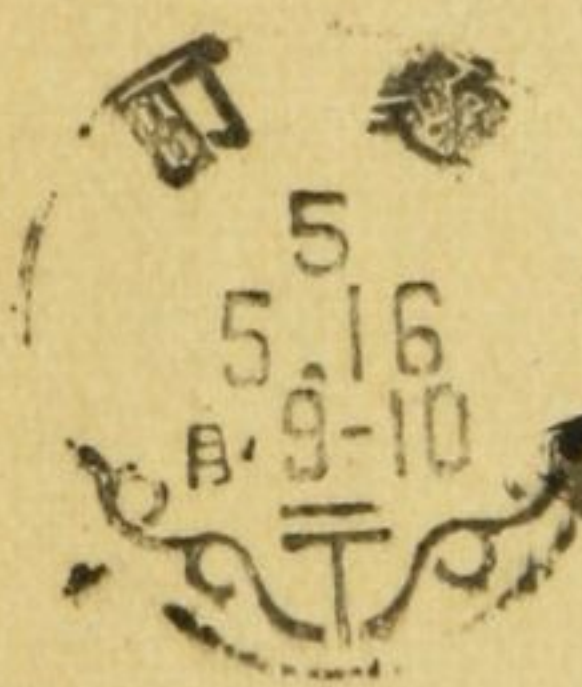
代_レ表_レの_レ御_レ也

法_レ會_レの_レ御_レ也

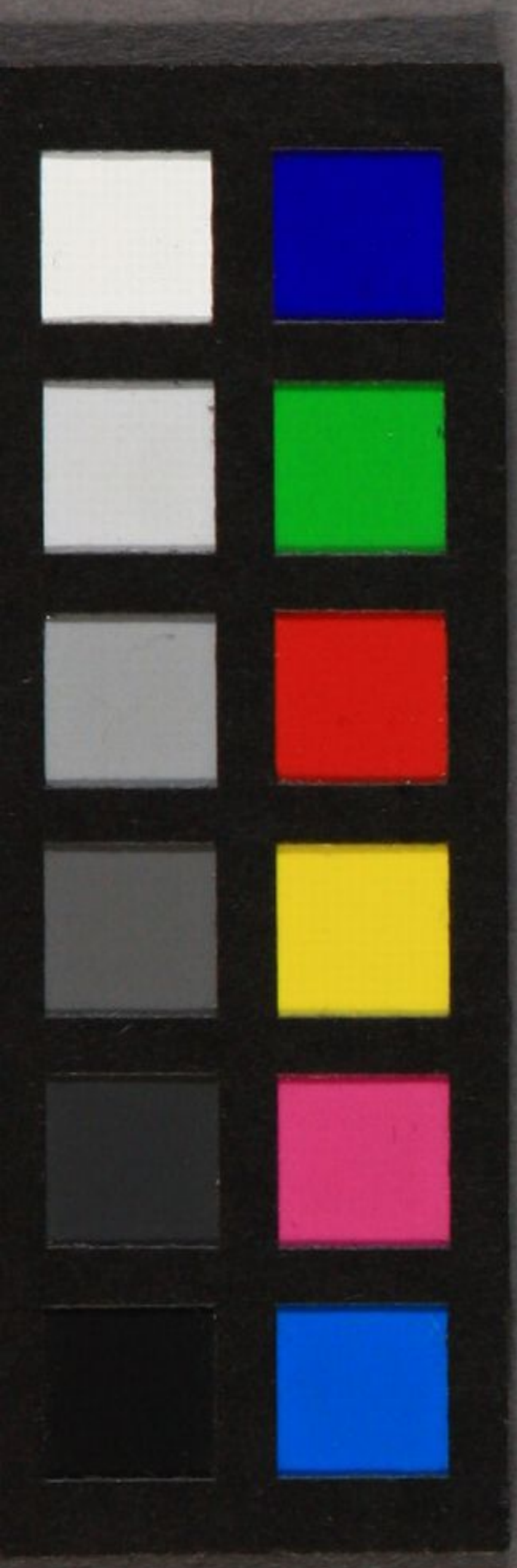




郵便はかき

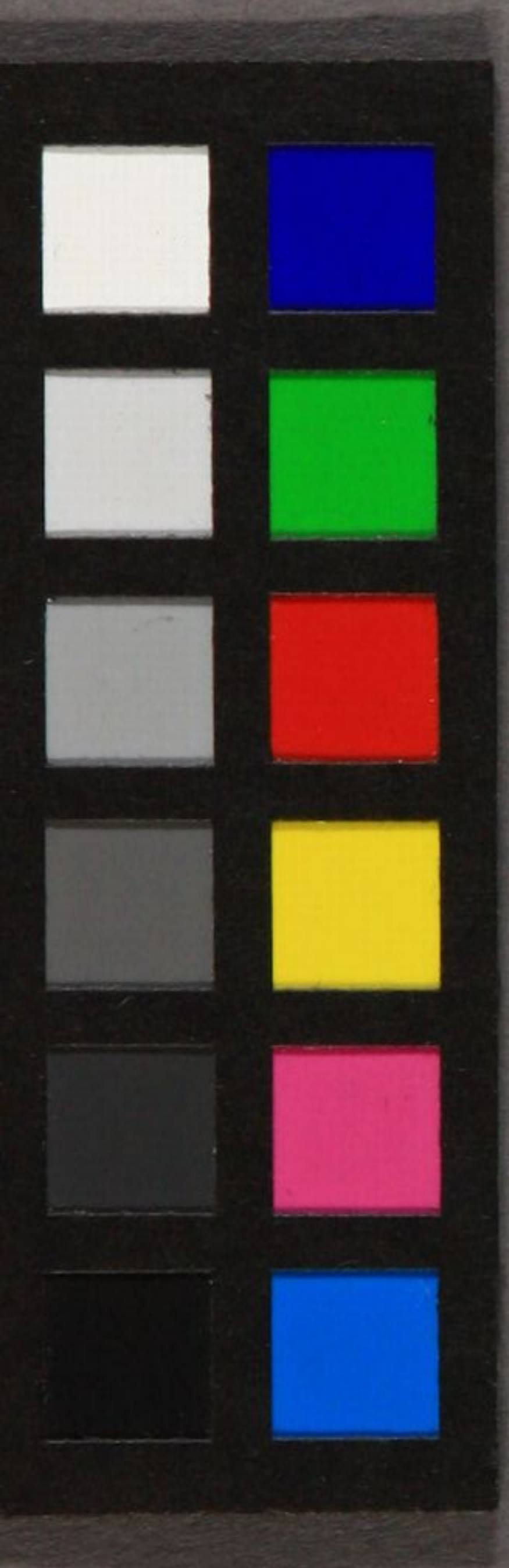


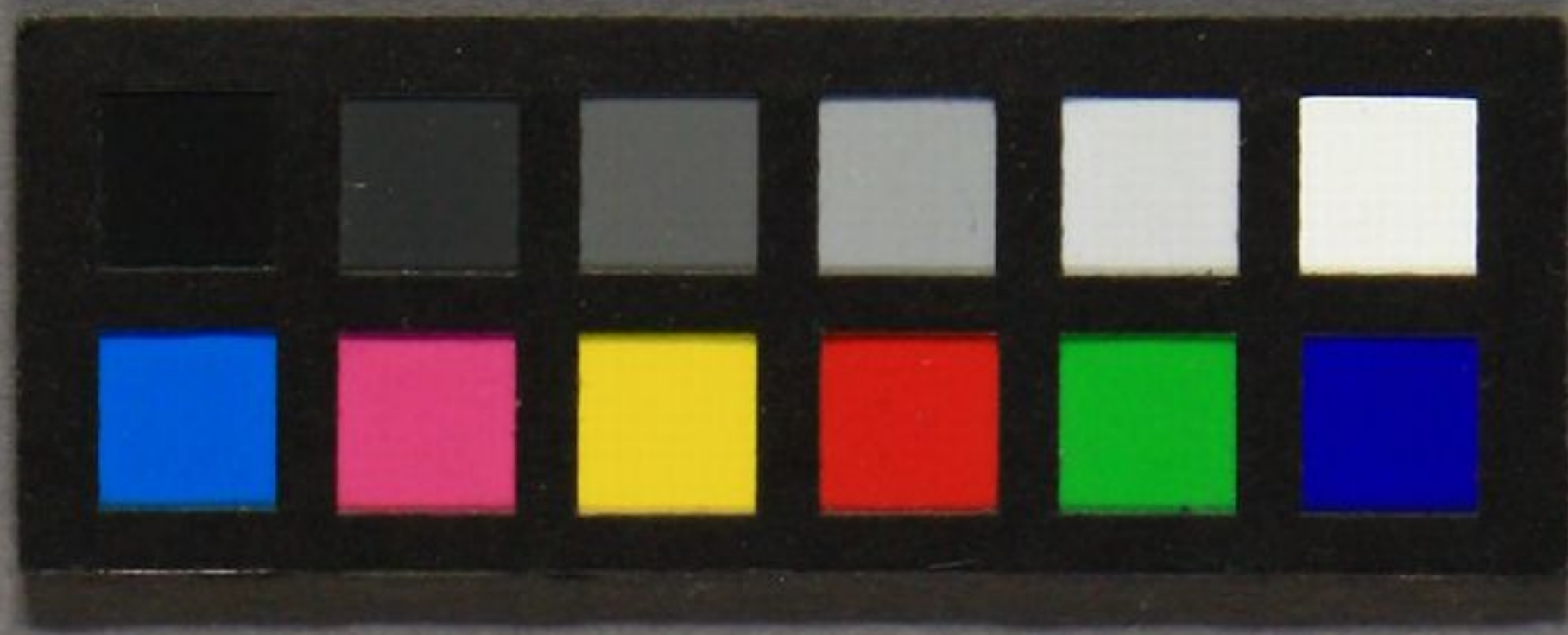
一府
西三
路
大
探
代
木
高
有



取 爲 染 付 拾 六
多 大 心 走 毛 拾 六
取 ぬ の た く せ じ め じ め
の 大 心 拾 六 拾 六
百 拾 六

6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8





十六の飯田の田のより思ふはくもあえはるき
 茲光の下より健輝のより考しよる殿は
 存の存よりし一及はは而時々の期を得る可
 なると存の時を同しとを向しと存から定と
 我とかく今今より存をまを思ふとつけしと世
 さ種し思と異しとせし淨邦の女未と存より
 今より存よりし不可思の目如と尊と
 小のしよるも我より生の生をまを思ふと存
 にも亦はつる世の一矢と存 杜のめは我より

M



よかしく島文は島文へよかしくある
すやまきさしにまきさきある白き道は
白きまきあり体のまき種この人柄の上
その個性を没せおしこまきを放ち給わす
うんまきつうまきはあらうや生は愁るや親
密言まや近くは清はまきまきを草野の海
ぬまきつたしはまきまきまきまきまき
かまきつたしはまきまきまきまきまき
たまきに敵はまきの念隨ち敵まきまき

解は法匠師とも初聲響きともなほおし敷
 六の徳もこま明又損取せらるゝ可たなる
 しくなる故も今もこれに杜為も其地の傳
 人と慕しあはる凡まは凡ま相成の合の
 の生みの上又絶ゆるの光明と本願とを認
 めて喜むは是れ個々の善業とかいふ事の中
 さへもが生は個性に依つて上へ降り下へ轉るゝ
 光中と一統も思ひ念佛のたしき事可ま
 三ええのしこ工するなり
 歎

加島文八兄

上海峯園
蘇州
文之
高
天



6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8

